

# 慈眼山遺跡

2007年

日田市教育委員会

## 序 文

古来より九州の交通の要所であった本市には、多くの文化財が市内各所に残されております。とりわけ市内北部を流れる花月川と有田川の合流部に位置する慈眼山は、中世日田の支配者であった大蔵氏の居城跡として知られ、その周辺部には数多くの遺跡の存在が知られています。

本書は、そのなかでも平成16年度に分譲地造成工事に伴って発掘調査を行った、慈眼山遺跡の調査内容をまとめたもので、調査では、中世後期の集落跡などが発見されました。

本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解と保護につながり、地域の歴史の解明や学術研究等にご活用いただければ幸いです。最後になりましたが、作業に従事いただきました皆様方や、調査にご協力いただきました関係者の方々に對しまして心から厚くお礼申し上げます。

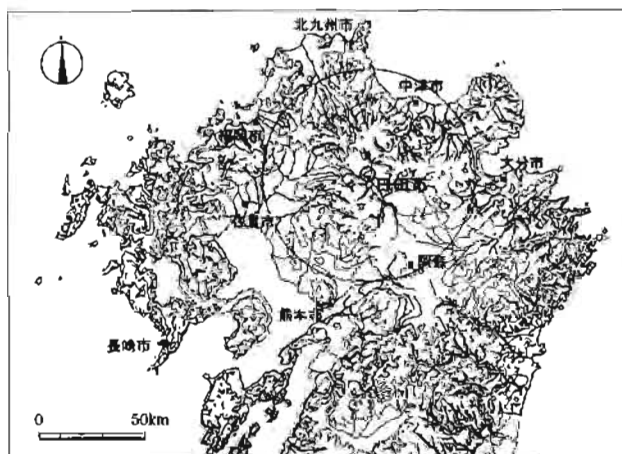
平成19年3月

日田市教育委員会教育長

諫山 康雄

## 例 言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成16年度に実施した慈眼山遺跡の発掘調査報告書である
2. 調査区 帯は周知の埋蔵文化財包蔵地である慈眼山瀬戸口遺跡に含まれるが、近年の発掘調査の結果、隣接する上ノ馬場遺跡周辺までの範囲内は遺跡内容の類似性が高いことから、両者を包括して慈眼山遺跡と呼ぶこととする。従って、これまで慈眼山瀬戸口遺跡と呼んできたが、本報告より慈眼山遺跡と改めることとする。  
※「慈眼山瀬戸口遺跡」 平成16年度日田市埋蔵文化財年報 日田市教育委員会 2005
3. 調査は分譲住宅造成工事に伴い、有限会社野上不動産の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
4. 調査現場での実測及び写真撮影は渡邊が行い、杉森久恵（元文化課補助員）の協力を得た。
5. 本書に掲載した遺物実測は渡邊が行い、遺構・遺物の製図は渡邊のほか、中川照美（文化財保護課調査補助員）の協力を得た。
6. 空中写真撮影は(株)東亜航空測量に委託し、遺物写真は雅企画有限会社の撮影による。
7. 挿図中の方位は全て磁北を示す。
8. 写真図版の遺物に付した数字番号は、全て挿図番号に対応する。
9. 出土遺物及び図面、写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
10. 本書の執筆編集は渡邊が担当した。



日田市の位置

## 目次

I 調査に至る経過と組織	1
II 遺跡の立地と環境	2
III 調査の記録	3
(1) 調査の概要	3
(2) 層序	3
(3) 遺構と遺物	5
1. 掘立柱建物	5
2. 溝	6
3. 井戸	9
4. 土坑	9
5. 柱穴	12
6. 包含層	12
7. その他の遺物	15
IV まとめ	17

## 挿図目次

第1図 調査区位置図 (1/7,000)	1
第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)	2
第3図 周辺地形図 (1/1,000)	3
第4図 調査区全体図 (1/250)	4
第5図 掘立柱建物実測図 (1/80)	6
第6図 溝実測図 (1/80、1/100)	7
第7図 井戸実測図 (1/60、1/40)	9
第8図 土坑実測図 (1/60)	10
第9図 遺構出土遺物実測図 (1/4)	11
第10図 包含層遺物出土状況実測図 (1/100、1/800)	13
第11図 包含層出土遺物実測図① (1/4)	14
第12図 包含層出土遺物実測図② (1/4)	15
第13図 その他の遺物実測図 (1/3、1/4、1/5)	16
第14図 出土渡来銭拓影図 (2/3)	17

## 表目次

表1 出土土器観察表①	18	表4 出土瓦・鉄器・木器類観察表	20
表2 出土土器観察表②	19	表5 遺構番号対応表	20
表3 出土土器観察表③	20		

## 図版目次

図版1 上段 調査区遠景 (慈眼山を望む)	図版4 ① 1号井戸完掘 (東から)
下段 調査区全景 (真上から)	② 2号井戸完掘 (西から)
図版2 ① 第1面4、5号溝 (東から)	③ 2号土坑 (東から)
② 第1面3号溝 (北から)	④ 3号土坑 (北から)
③ 整地層Aグリット	⑤ 4号土坑土器出土状況 (西から)
④ Aグリット漆出土状況	⑥ 11号柱穴 (西から)
⑤ 整地層Bグリット	⑦ 97号柱穴木製品出土状況 (西から)
⑥ Bグリット遺物出土状況	⑧ 108号柱穴木製品出土状況
⑦ Bグリット銭出土状況	図版5 ① 柱木出土状況
⑧ 整地層Cグリット	② 礎石出土状況
⑨ 整地層Dグリット	出土遺物
図版3 ① 整地層Eグリット	図版6 出土遺物
② 整地層Eグリット銭出土状況	
③ 整地層F・Gグリット	
④ Fグリット土器出土状況	
⑤ Fグリット有機物出土状況	
⑥ 2号溝 (西から)	
⑦ 6号溝 (北から)	
⑧ 7号溝 (北から)	

## 本文写真目次

写真1 作業風景	写真6 土層5
写真2 土層1	写真7 渡来銭
写真3 土層2	写真8 漆器
写真4 土層3	
写真5 土層4	

## I 調査に至る経過と組織

平成16年5月28日付けで、有限会社野上工務店より市教育委員会に、日田市上城内町435-1～3で宅地分譲地造成工事に先立つ事前の照会文書が提出された。この開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である慈眼山瀬戸口遺跡に該当し、これまでの周辺部での調査から遺跡の存在が明らかにされており、後背の丘陵頂部には大蔵古城跡が所在することなどから、その取り扱いについて協議が必要である旨の文書回答を行った。その後の6月21日には予備調査依頼が提出され、これを受けて6月29日には重機による試掘調査を実施したところ、対象地全面に遺跡の存在が確認された。

こうした結果をもとに、開発主と遺跡の取り扱いについての協議を重ねたところ、予定地の造成は全面盛土工法にて行われるものの、造成地内に上下水道配管施設を伴う位置指定道路が設置されることから、この部分における遺跡の保存は困難であると判断し、農地転用許可後の9月に道路部分約400m<sup>2</sup>の発掘調査を実施することとなった。その後平成16年9月1日に事業主との委託契約を取り交わしたが、事業主側の諸事情により調査開始が大幅に遅れ翌平成17年2月17日から3月31日の間発掘調査を実施した。その後、6月2日～7月28日の間整理作業を実施し、翌平成18年度に報告書作成を行った。調査に関する日誌は以下のとおりである。

- 2月17日 機械を用いて表土除去を開始する。周辺部より大量の水が流入するため、排水作業に手間取る。
- 2月23日 遺構検出を開始し、大量の遺物を含む包含層の存在が明らかとなる。
- 2月27日 西側より遺構の堀下げを開始する。
- 3月10日 遺構の実測を開始する。大量の遺物が出土。
- 3月26日 遺構の堀下げ・実測作業が完了する。
- 3月30日 空中写真撮影を実施する。
- 3月31日 全ての機材の片付・撤収を行い、調査を完了する。

なお、調査組織は次のとおりである。

平成16～18年度（※平成16年度以前は日田市教育委員会文化課）

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 諫山康雄（日田市教育委員会教育長）

調査統括 後藤 清（同文化財保護課課長）

調査事務 高倉隆人（同文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長）、田中正勝（同専門員〔平成18年度～〕）

伊藤京子（同副主幹〔平成17年～専門員〕）、中村邦宏（同主事補）

調査担当 渡邊隆行（同主事〔平成17年～主任〕）

調査員 土居和幸（同副主幹〔～平成17年度〕）、

今田秀樹（同主任〔平成17年～〕）、

行時桂子（同主任）、若杉竜太（同主任）

矢羽田幸宏

（同主事補〔平成17年、18年～主事〕）

調査作業員 安心院照雄、石井猪之助

蒲池妙子、五反田静子、財津利枝

財津由太、庄内武子、高倉富美子

高村三郎、筒井英治、行村シツエ

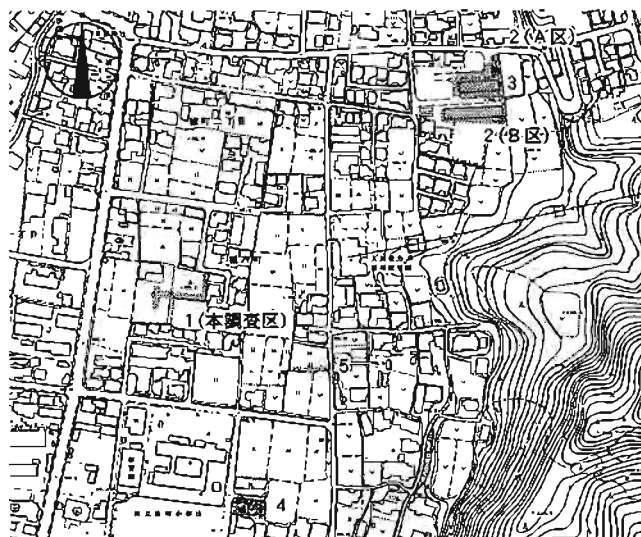
原口勝利、原田強、平川五男

平原知義、森輝雄

整理作業員 平川優子



写真1 調査作業風景



第1図 調査区位置図 (1/7,000)  
(番号は、第2図の凡例に対応する)

## II 遺跡の立地と環境

慈眼山遺跡は、日田市東部の通称慈眼山から佐寺原台地一帯の丘陵裾部に広がる標高85～90m前後の沖積地上に位置する。この一帯には水田が比較的多く残っているが、市街地に近いこともあり、宅地造成やアパート、商業施設などの各種開発が近年増加する傾向にある。

この調査区周辺ではこれまで数度の調査（第1図）が実施されている。調査区北東側の慈眼山遺跡<sup>(1)</sup>では15、16世紀の水路や堀、隣接する慈眼山瀬戸口遺跡<sup>(2)</sup>では中世の掘や石垣状の遺構が確認されるとともに、古代の井戸や墨書土器等が発見され、官衙関連施設の可能性が指摘されている。南側の上ノ馬場遺跡1次調査<sup>(3)</sup>で古墳時代の溝跡、15、16世紀の水路や井戸跡などが確認され、上ノ馬場遺跡2次調査<sup>(4)</sup>では中世の建物跡や井戸跡などが確認されている。また、さらに南側の日田条里熊崎地区<sup>(5)</sup>では中世の流路等が確認されている。これらはほぼ同時期に大規模な集落がこの一帯に形成されていたことを示し、慈眼山遺跡として包括される。この遺跡の北側丘陵上の慈眼山上には、11世紀に登場し、15世紀中頃まで日田を支配した大蔵氏の居城跡とされる大蔵古城跡<sup>(6)</sup>がある。

さて、これら慈眼山関連以外の周辺遺跡を見てみると、花月川を渡った北側の沖積地には中世の建物群が確認された日田条里上手地区<sup>(8)</sup>が所在し、東側丘陵斜面には竪穴式石室を主体部とする円墳の丸山古墳<sup>(9)</sup>、台地上には弥生時代中～後期の集落が確認された佐寺原遺跡<sup>(10)</sup>、その台地先端部の崖面には夕田古墳<sup>(11)</sup>、夕田横穴墓<sup>(12)</sup>、佐寺原横穴墓等<sup>(13)</sup>の古墳時代の墳墓群が所在する。西側には豆田の城下町<sup>(14)</sup>が広がり、その北側には多数の横穴墓が築造された月隈横穴墓群<sup>(15)</sup>、江戸時代に代官・郡代が置かれた永山布政所跡<sup>(16)</sup>がある。さらに豆田の西側には弥生～古墳時代の集落が確認された一丁田遺跡<sup>(17)</sup>が所在し、さらに南側の吹上台地上には弥生時代の大規模集落で、特定集団墓が確認された吹上遺跡<sup>(18)</sup>が所在する。南側の沖積地には古代の集落や墨書土器の発見された大波羅遺跡<sup>(19)</sup>、弥生～古代の集落が発見された日田条里飛矢地区<sup>(20)</sup>などがあり、丘陵部には古墳時代の墳墓群が発見された赤迫遺跡<sup>(21)</sup>、埴輪の出土が確認された大型円墳の栗師堂山古墳<sup>(22)</sup>、丸尾神社古墳<sup>(23)</sup>などの古墳の点在が見られる。

〔参考文献〕

- 坂本嘉弘編 「慈眼山瀬戸口遺跡」国家公務員合同宿舍日田住宅2号棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 大分県教育委員会 1992年
- 田中裕介編 「慈眼山遺跡（A地区）」大分県文化財調査報告第85編 大分県教育委員会 1991年
- 行時志郎編 「上ノ馬場遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第23集 日田市教育委員会 2000年
- 渡邊隆行編 「大波羅遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第29集 日田市教育委員会 2001年
- 土居和幸編 「大波羅遺跡3次」日田市埋蔵文化財調査報告書第54集 日田市教育委員会 2004年
- 若杉竜太郎編 「日田条里飛矢地区」日田市埋蔵文化財調査報告書第40集 日田市教育委員会 2003年



第2図 周辺遺跡分布図 (1/25,000)



### Ⅲ 調査の記録

#### (1) 調査の概要 (第3図)

調査は試掘調査の結果を踏まえて、調査対象地西側より順次、遺構検出面まで機械で掘下げてから遺構の確認を行った。調査区は幅約5m、東西長約51m、南北長約20mのクランク形を呈し、面積は約400m<sup>2</sup>のほぼ平坦な地形である。遺構検出面は現況基盤土下層に見られる淡灰黄褐色土で、これに掘り込んだ柱穴・溝・井戸などが検出された。ただし、東側では地山が軟質粘土層となっているためかその上面を黄褐色土で固めて整地(第2面)しており、これらに土坑や柱穴などが掘りこまれていた。また、この整地層の上面に大量の遺物が廃棄された包含層が数層に渡って形成されており、この包含層上面(第1面)には遺構の掘り込みが確認された。

そこで、調査は西側の遺構検出及び掘下げから順次行い、東側では第1面の遺構検出及び遺構掘下げを行った後、包含層を掘下げ、第2面の遺構検出・掘下げを行うこととした。

調査において検出された遺構は建物3棟、井戸2基、土坑8基、溝8条、柱穴多数である。なお、建物復元は調査範囲が狭いため可能な範囲でしか実施していないが、柱木が見られる柱穴の存在などから、本来はさらに多くの建物が建っていたものと想定される。遺構埋土は暗褐色土であった。

#### (2) 層序 (第4図)

対象地内の西と東で堆積状況や地山などが異なることから、各箇所毎の土層図の説明を行い、その結果に従って本調査区の堆積状況を説明する。

土層1・2は基本的にほぼ同様な堆積状況を示している。現況水田層下の3・4層が堆積層である。

土層3は調査区中央部の東西方向の土層である。現況水田層下の3層下面(第1面)には遺構が検出され、この3層は土層1・2の3層に対応するものと考えられる。この3層下面(第1面)から15・16・17層上面(第2面)の間には大量の遺物を含んだ包含層が形成されている。このうち、第2面上面の13層は土層1・2の第4層に対応するが、そのほかの4~14・22・23層は薄く短い堆積層が重なりながら形成されており、一定の厚さを保って水平堆積している3・13層とは質が異なっている。特に、22層の薄い黄褐色系に対し7・8層のように黒色系の土層が互層をなして堆積することやブロック状の土層などが見られることなどから、自然堆積ではなく人為的な盛土層の可能性が高く、また第1面に遺構が検出されていることから、整地が行われた可能性が考えられる。このうちの黒色系の7・8層には遺物と共に大量の炭及び焼土が含まれており、部分的に焼土のブロックも見られることから、火災などによって焼けた箇所の土を大量に運び込んだ可能性が高く、遺物もこの際の混入と想定される。さて、包含層の下面(第2面)から遺構が検出されるが、15、16層はしまりのある灰黄



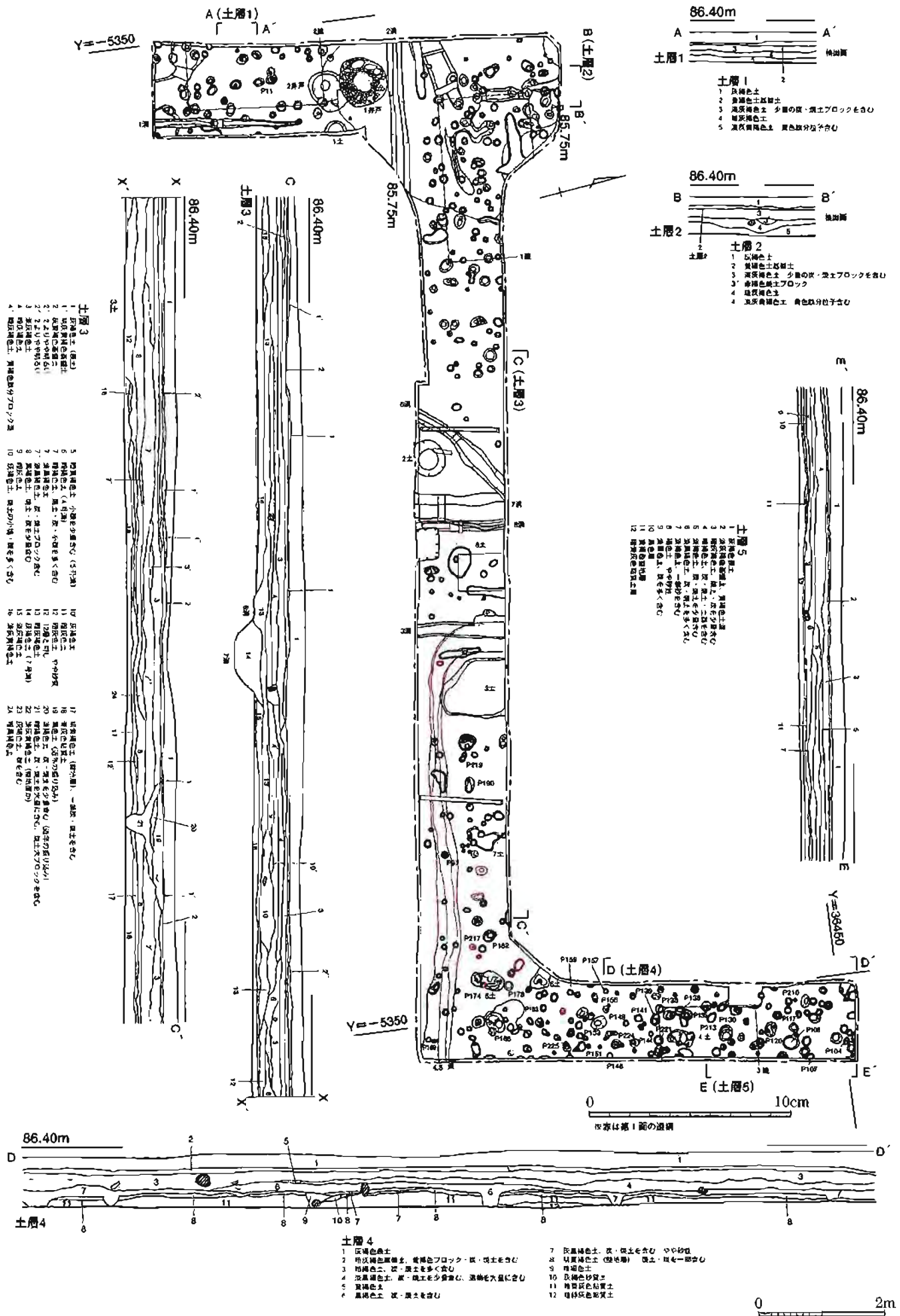
写真2 土層1



写真3 土層2



第3図 周辺地形図(1/1,000)



第4図 調査区全体図 (1/250) ※土層図は1/80

褐色系の地山であるのに対して、3号土坑以東では17層の硬くしめられた整地層が形成される。これは、この一帯には16層のような地山が見られず18層のような青灰色の軟質粘土層が地山であることに起因しているものと考えられる。

土層4では現況基盤土直下に遺物を含む3層が堆積しており、これが土層3の3層にはほぼ対応する。この3層下面が第1面であり、この下に大量の遺物を含む4～7層の包含層が所在し、8層は黄褐色土の整地層となっている。この8層より下には軟質粘土層が厚く堆積している。また、土層5は土層4とほぼ同様の堆積状況を示し、包含層は4～10層で、第1面の整地層が11層である。

基本的に調査区全体での堆積状況は同じであるが、間に整地と想定される盛土層があるかどうか、第1面を整地しているかの2点で東西に差が見られる。特に東側で上記2点の傾向が強いといえる。



写真4 土層3



写真5 土層4



写真6 土層5

### (3) 遺構と遺物 (第4図)

第1面と第2面の各遺構及び包含層について説明するが、紙面の都合上第1面、第2面を区別して説明せず、遺構別で解説する。なお、第1面にて検出された遺構は溝と柱穴のみである。

#### 1. 掘立柱建物

建物と想定されるものは3棟である。実際にはさらに多数の建物が想定される。

##### 1号掘立柱建物 (第5図)

調査区西側にて確認された東西方向に軸をとる1×4間の掘立柱建物である。北西側の柱穴は調査区外のため確認出来ていない。検出面での柱穴は約40～70cmの円形を呈し、深いものは約50cmを測る。梁行方向柱穴間の距離は約2m、桁行方向の柱穴間距離は約4.4mを測り、心心距離で東西長軸約8m、南北短軸約4.5mを測る。

##### 2号掘立柱建物 (第5図)

調査区南西側にて確認された南北方向に軸をとる1×3間の掘立柱建物で、2号井戸を切っている。西側の柱穴は調査区外のため確認出来ていない。検出面での柱穴は約40～60cmの円形を呈し、深いものは約40cmを測る。梁行方向柱穴間の距離は約2m、桁行方向の柱穴間距離は約3.1mを測り、心心距離で南北長軸約6.7m、東西短軸約3.1mを測る。

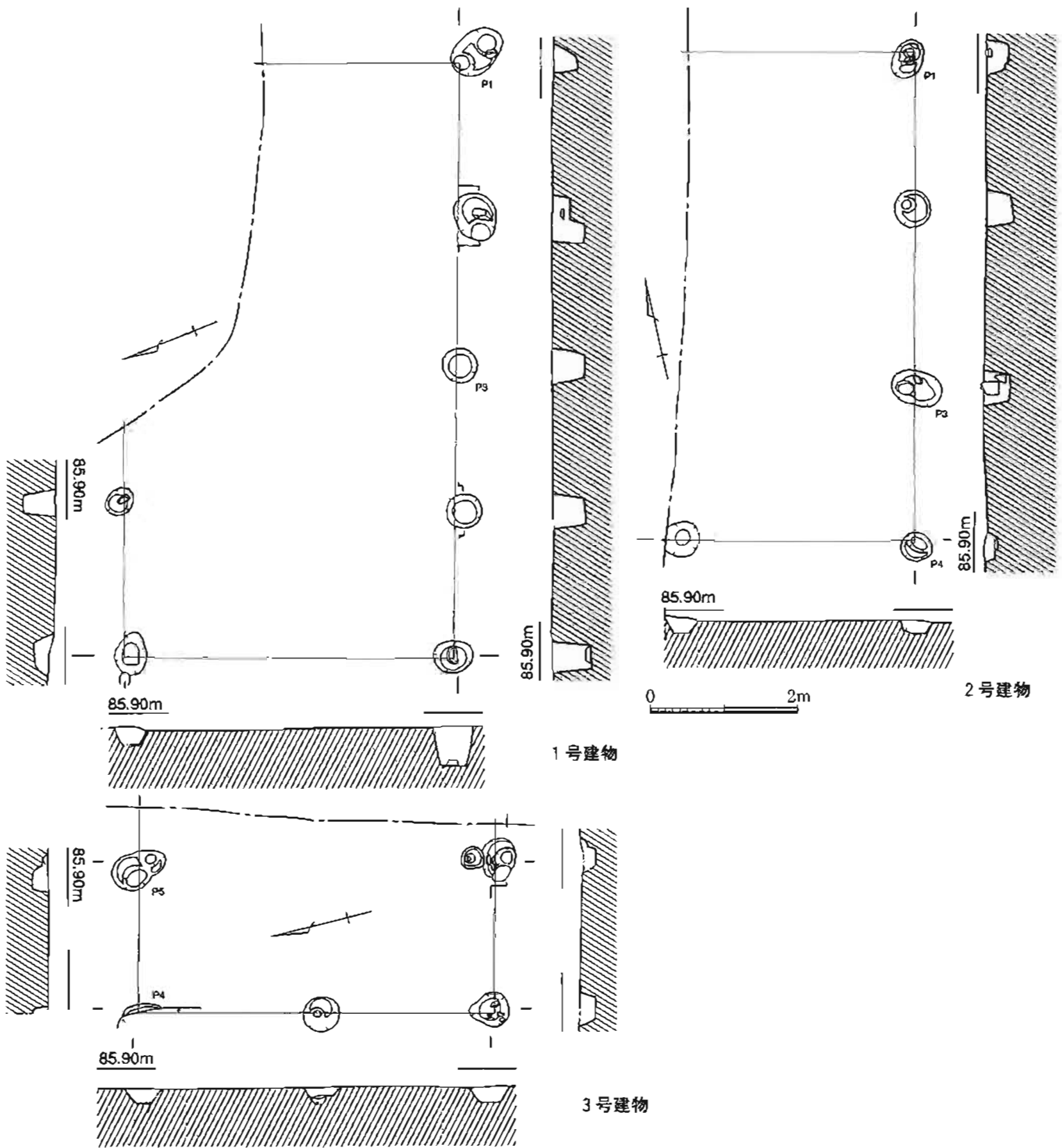
##### 3号掘立柱建物 (第5図)

調査区南西側にて確認された東西方向に軸をとる2×1間以上の掘立柱建物である。東側の柱穴は調査区外のため確認出来ていない。検出面での柱穴は約40～50cmの円形を呈し、深いものは約25cmを測る。梁行方向柱穴間の距離は約2m、桁行方向の柱穴間距離は約2.4mを測り、心心距離で東西長軸約2m以上、南北短軸約4.8mを測る。

##### 掘立柱建物出土遺物 (第9図)

1～7は建物より出土した土師質土器片である。このうち2～6はやや内湾気味に口縁部が立ち上がる。1は1号建物P3、2は1号建物P1、3は2号建物P3、4は2号建物P4、5は2号建物P1、6は3号建物P5、7は3号建物P4から出土している。





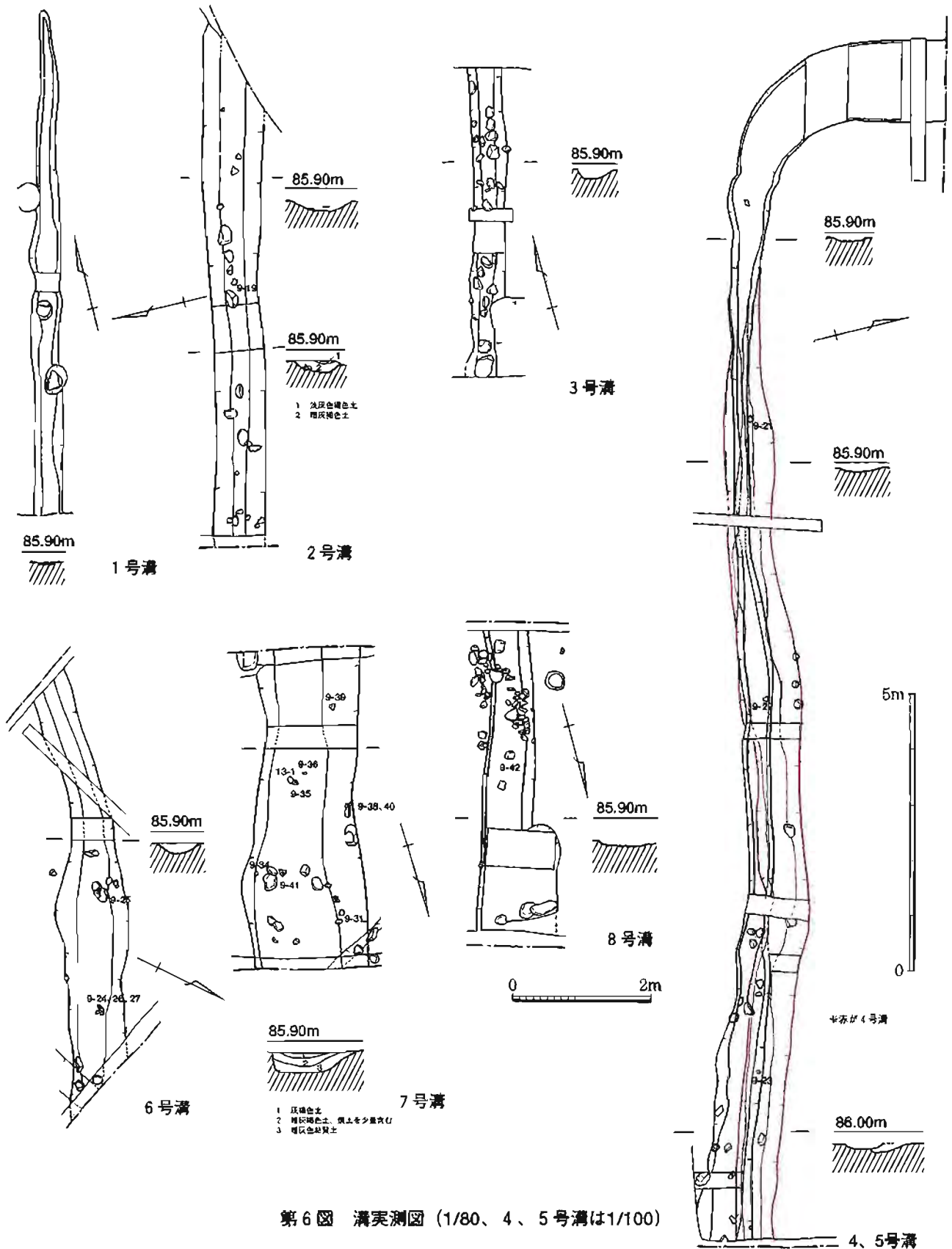
第5図 掘立柱建物実測図 (1/80)

## 2. 溝

溝は全部で8条確認された。うち、3号及び4・5号溝が第1面で確認された。なお、西側の不整形のものは地山の落ち込みと判断している。

### 1号溝 (第6図)

調査区南西側にて検出された南北方向の溝で、調査区外へと伸びている。調査区内での長さ約7.2m、確認面で最大幅約45cmを測り、断面形は浅いU字形を呈し、深さは約5cmを測る。南側にむかって低くなっている。遺物の出土は見られなかった。



第6図 溝実測図 (1/80、4、5号溝は1/100)

2号溝 (第6図、図版3)

調査区西側に検出された東西方向の溝で、調査区外へと伸びている。調査区内での長さ約7.5m、確認面で最大幅約90cmを測り、断面形は浅いU字形を呈し、深さは約20cmを測る。西側にむかって低くなっており、

西流していたものと考えられる。埋土はレンズ状堆積を呈し、溝内には石類や遺物の流れ込みが見られた。

#### 3号溝（第6図、図版2）

調査区中央部の第1面にて検出された南北方向の溝で、調査区外へと伸びている。調査区内での長さ約4.6m、確認面で最大幅約50cmを測り、断面形は浅いU字形を呈し、深さは約15cmを測る。東西両側の深さが変わらないことから、流れの方向は不明である。溝内には石類の流れ込みが多く見られた。遺物の出土は見られなかった。

#### 4・5号溝（第6図、図版2）

調査区中央の第1面にて検出された東西方向の溝で、西側では北側へ大きく曲がって調査区外へと伸びている。溝の作り替えによるものと思われ、5号溝が4号溝に切られている。調査区内での長さ約21m、確認面で最大幅約1mを測り、断面形は浅いレンズ状を呈し、深さは4号溝が約10cm、5号溝は約20cmを測る。西側にむかって低くなっており、西流していたものと考えられる。溝内には石類や遺物の流れ込みが見られた。

#### 6号溝（第6図、図版3）

調査区中央部にて検出された7号溝を切る溝で、調査区外へと伸びている。調査区内での長さ約7.5m、確認面で最大幅約1mを測り、断面形はレンズ状を呈し、深さは約15cmを測る。南西方向が高く、北東方向へとやや蛇行しながら流れていたものと考えられる。埋土はレンズ状堆積を呈し、溝内には石類や遺物の流れ込みが見られた。

#### 7号溝（第6図、図版3）

調査区中央部にて検出された6号溝に切られる南北方向の溝で、調査区外へと伸びている。調査区内での長さ約4.6m、確認面で最大幅約1.8mを測り、断面形は逆台形状を呈し、深さは約30cmを測る。北方向へと流れていたものと考えられる。埋土はレンズ状堆積を呈するが、2層に焼土が混入していることから、人為的埋め戻しの可能性がある。溝内には石類や遺物の流れ込みが見られた。

#### 8号溝（第6図）

調査区中央にて検出された南北方向の溝で、調査区外へと伸びている。調査区内での長さ約4.6m、確認面で最大幅約70cmを測り、断面形はレンズ状を呈し、深さは約10cmを測る。どちらへの流れかは不明である。溝内には石類の流れ込みが見られた。

#### 溝出土遺物（第9図）

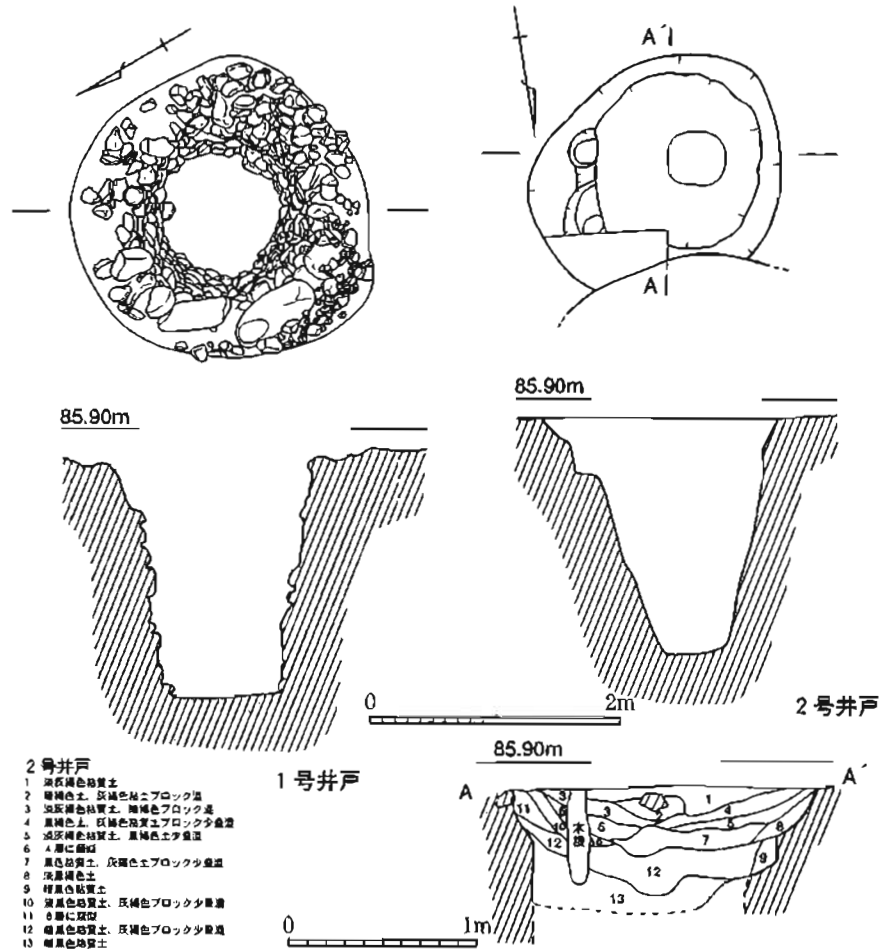
14～19は3号溝から出土した。14・15は土師質土器坏である。口縁部はやや内湾気味に立ち上がる。16は土師質土器小皿の底部である。17は青磁碗で、ヘラ描きの細線蓮弁文が施される。18は青磁碗で、口縁部端部やや下面に沈線文が一条巡る。19は瓦質土器火鉢である。平鉢形で口縁部は内傾し、端部を平坦に仕上げる。2条の突帯を巡らせ、円形枠に4つの内向花文のスタンプが連続して施される。20は4号溝から出土した陶器播鉢である。備前焼か。直線気味に立ち上がり口縁部を上方へ屈曲させる。5条のタテ櫛目が見られる。21～23は5号溝から出土した。21は土師質土器坏で口縁部はやや外へ開き、内湾気味を呈する。22・23は土師質土器小皿で口縁部は直線的に立ち上がる。24～29は6号溝から出土した。24～27は土師質土器坏で、27は低く直線的に外に開く。28・29は土師質土器小皿である。30～32、34～41は7号溝から出土した。30～32・34は土師質土器坏である。30・31はやや内湾気味に立ち上がり、32・34は直線的に立ち上がる。35～37は土師器小型坏で、35は口縁部が外側に開く。36は口縁部が内湾する。38は陶器播鉢である。備前焼か。直線気味に立ち上がり口縁部が屈曲し上方へ内傾させる。10条のタテ櫛目が見られる。39は瓦質土器播鉢である。直線的に開き、口唇部を内側に小さく屈曲させる。7条のタテ櫛目が見られる。40・41は深鉢型の瓦質土器火鉢である。2条の突帯が巡り、梅鉢文のスタンプが連続して施される。33・42は8号溝から出土した

土師質土器坏である。口縁部は直線的に立ち上がる。

### 3. 井戸

#### 1号井戸 (第7図、図版4)

調査区西側にて確認された2号井戸を切る石組井戸である。ほぼ完全な状態で最上面にやや大きめの石が見られることから、上部石組構造のみが削平を受けているものと考えられる。なお、狭く崩落の危険があるため土層図は作成せず、石の崩落の危険が非常に高いため裏込めの確認は行っていない。掘方は直径約2.4mの円形を呈し、石組枠の直径は1.5mで、深さ約2mを測る。上面は摺鉢状に開くが、中ほどから径1m程度の筒状に下がる。人頭大の自然礫を丁寧に積み上げ、隙間に小型の石を充填していた。底面には木枠などの存在



第7図 井戸実測図 (1/60 ※土層は1/40)

は確認出来なかったが、小礫の下に砂の堆積層を確認した。埋土は粘質土が堆積し、崩落に伴う石材が多く流入していた。また、底面に近い位置から木製品が出土しており、なかでも桶と考えられる木製品が出土した。水の汲み上げに利用されていたのだろうか。そのほか瓦などの出土が見られた。

#### 2号井戸 (第7図、図版4)

調査区西側にて確認された1号井戸に切られる素掘りの井戸である。土層図は崩落の危険があることから上部のみしか作成していない。掘方は直径約2mの円形を呈し、深さ約1.9mを測る。摺鉢状に開く形状をなし、底面は径約45cmを測る。埋土は粘質土が堆積し、石類の出土は殆ど見られなかった。石類の残存が殆ど見られず、また1号井戸と違って摺鉢状を呈することなどから、石組の抜取りが行われたのではなく、素掘り構造であったものと考えられる。井戸上面の埋土は著しいブロック状の土による互層をなしていることから、意図的に埋め戻された可能性が高い。1号井戸がこの井戸を切って作られることなどから、素掘りのものを石組井戸へと作り替えた可能性が指摘できよう。

#### 井戸出土遺物 (第9図)

8~10は2号井戸から出土した。8は土師質土器坏である。9は瓦質土器火鉢である。平鉢形で口縁部は内傾し、端部を平坦に仕上げる。2条の突帯を巡らせ、円形枠に4つの内向花文のスタンプが重なって施される。10は青磁碗である。

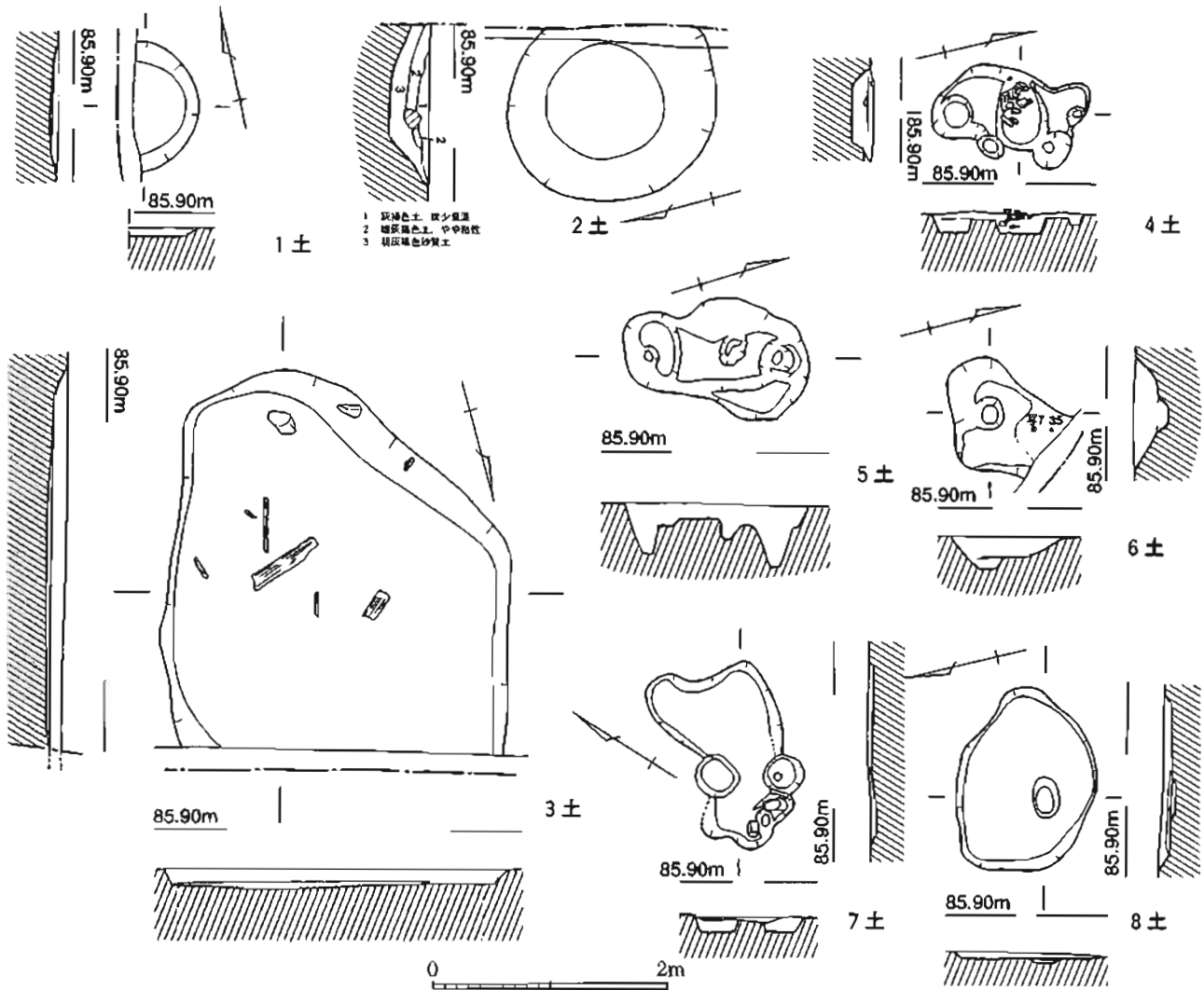
### 4. 土坑

土坑は全部で8基確認されたが、そのほかは深さから柱穴と認定している。

#### 1号土坑 (第8図)

調査区西側にて検出された土坑で、調査区外に広がっている。確認面での規模は南北幅約110cm、東西幅約





第8図 土坑実測図 (1/60)

55cmを測る円形を呈し、深さは約10cmを測る。遺物の出土は見られなかった。

2号土坑 (第8図、図版4)

調査区中央部にて検出された土坑で6・7号溝に近接する。一部が調査区外にかかる。確認面での規模は径約180cmの円形を呈し、深さは約35cmを測る。埋土はレンズ状の自然堆積を呈する。

3号土坑 (第8図、図版4)

調査区中央にて検出された土坑で3号溝に近接する。一部が調査区外へと広がる。確認面での規模は南北幅約3.2m、東西幅約3mの不整形を呈し、深さ約15cmを測る。木材が数点中央部に堆積していた。

4号土坑 (第8図、図版4)

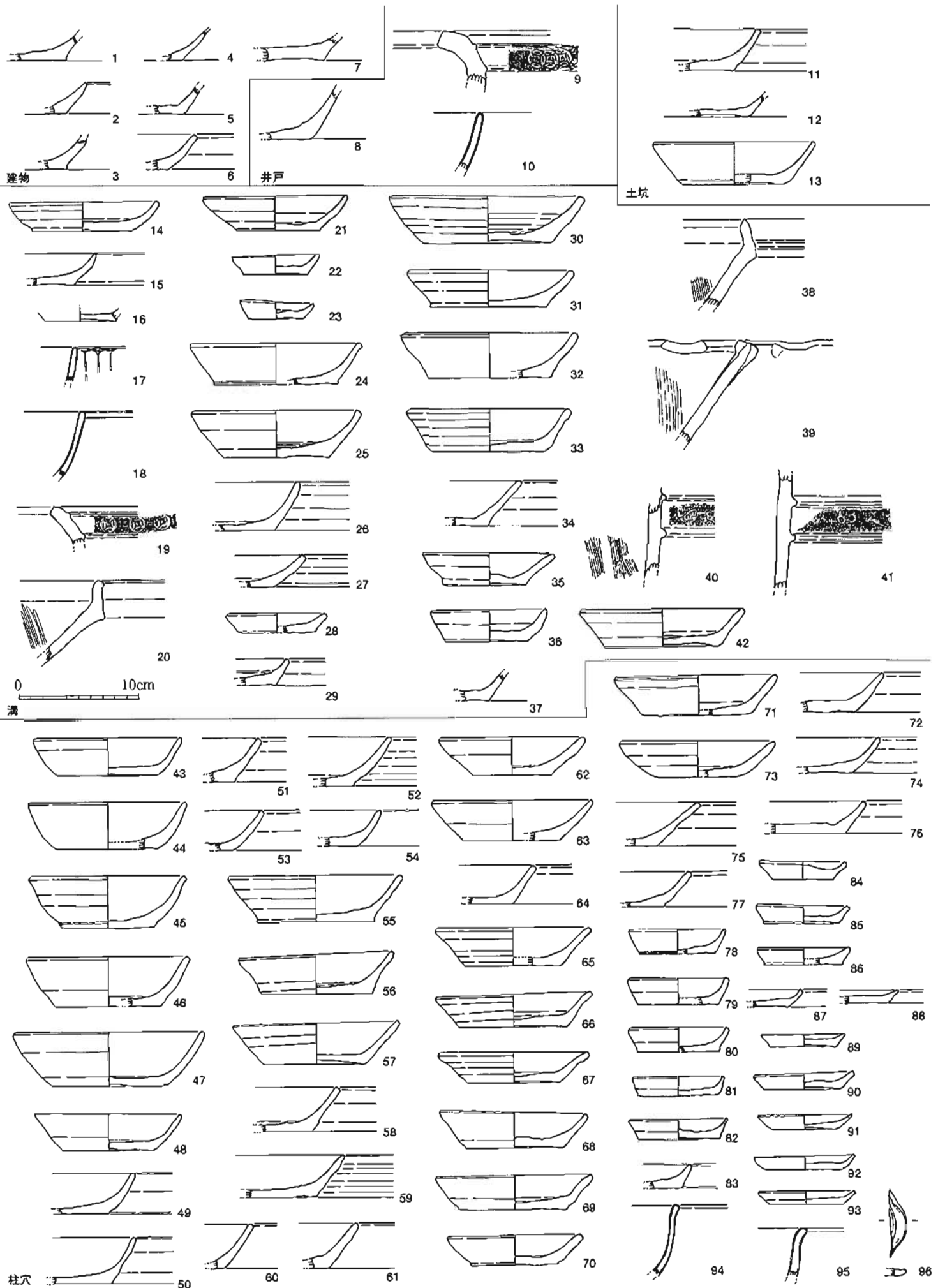
調査区東側にて検出された土坑である。確認面での規模は南北幅約130cm、東西幅約90cmの不整形を呈し、深さ約20cmを測る。

5号土坑 (第8図)

調査区東側にて検出された土坑である。確認面での規模は南北幅約150cm、東西幅約90cmの不整形を呈し、深さは深いところで50cmを測る。遺物の出土は見られなかった。

6号土坑 (第8図)

調査区東側にて検出された土坑で、一部は調査区外へと広がる。確認面での規模は南北幅約110cm、東西幅約100cmの不整形を呈し、深さ約30cmを測る。銭が2点ほど出土している。



第9图 遺構出土遺物実測図 (1/4)

#### 7号土坑（第8図）

調査区中央より東側にて検出された土坑である。確認面での規模は南北幅約160cm、東西幅約110cmの不整形を呈し、深さは約5cmを測る。遺物の出土は見られなかった。

#### 8号土坑（第8図）

調査区東側にて検出された土坑である。確認面での規模は東西幅約160cm、南北幅約120cmの不整形を呈し、深さは約5cmを測る。遺物の出土は見られなかった。

#### 土坑出土遺物（第9図）

11は2号土坑より出土した土師質土器坏で、口縁部は内湾して立ち上がる。12は3号土坑より出土した土師質土器坏である。13は4号土坑より出土した土師質土器坏で、口縁部はやや直線的に外に開く。

#### 5. 柱穴

柱穴は第1面では調査区東側にまばらに見られるが、第2面では全面に認められる。これらは大半が掘立柱建物と考えられ、柱木や礎石などが柱穴内には見られた。（図版4）また、木製の坏と思われる遺物がP97から出土しているが、これら木製品の一部は整理が完了していないことなどから今回報告出来なかった。

#### 柱穴出土遺物（第9図）

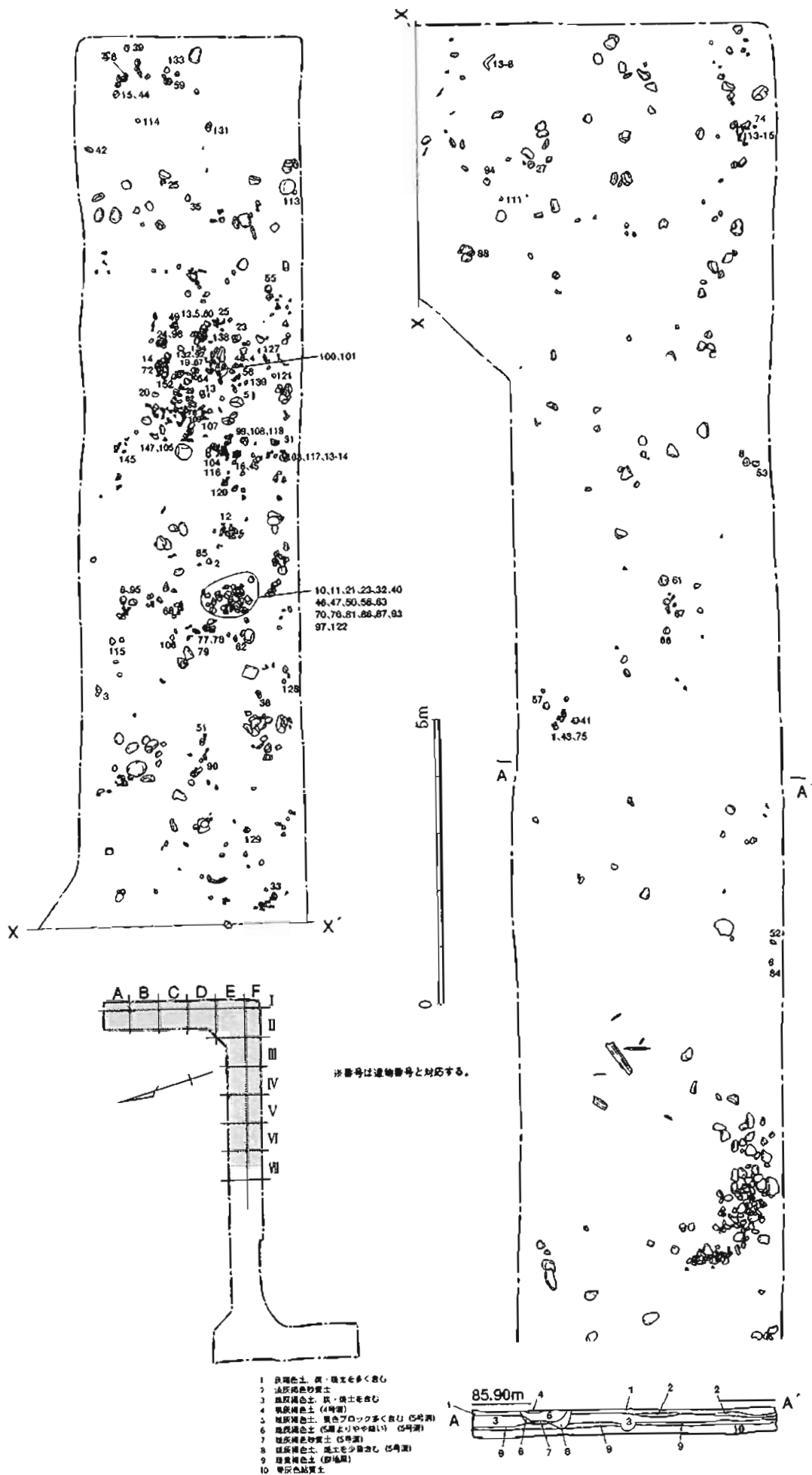
43～96が柱穴より出土した遺物である。紙面の関係上器形別に配置して説明する。出土柱穴番号については観察表を参照していただきたい。43～77は土師質土器坏である。43～54は内湾しながら上方に口縁部が立ち上がる。55～61は口縁部が直線的に上方に立ち上がる。62～64は直線的に外に開き、65～67は外反して外に開く。68～74は低く外に開き、75は直線的に長く外に開き、76は低く立ち上がる。78～93は土師質土器小皿である。78～80は器高がやや高く、口縁部が上方に立ち上がる。81～83は器高が低く、口縁部が上方に立ち上がり、84～93は器高が低く、口縁部が大きく外に開く。94・95は青磁碗で口縁部が小さく外に外反する。96は青磁の皿か。

#### 6. 包含層（第10図、図版2・3）

調査区東側の第1面と第2面との間に大量の遺物を含む包含層が確認された。この包含層は複数層にて形成されているため、層位別に時期が異なる可能性を想定しながら包含層の範囲にグリットを設定して掘り下げた。ほぼ全面からの遺物の出土が見られ、特にA～FのⅠ・Ⅱグリット間に多くの遺物の集中が見られた。またF～Ⅳグリット周辺には石類の集中が見られる。このように、部分的に遺物の集中する箇所があるものの、その範囲は明確化されていない。また、層位別に取上げなどを実施したものの、層位をまたがって入る遺物や器形的な差に大きな違いが見られないことなどから、この包含層の堆積時期はほぼ同時期の可能性が考えられる。

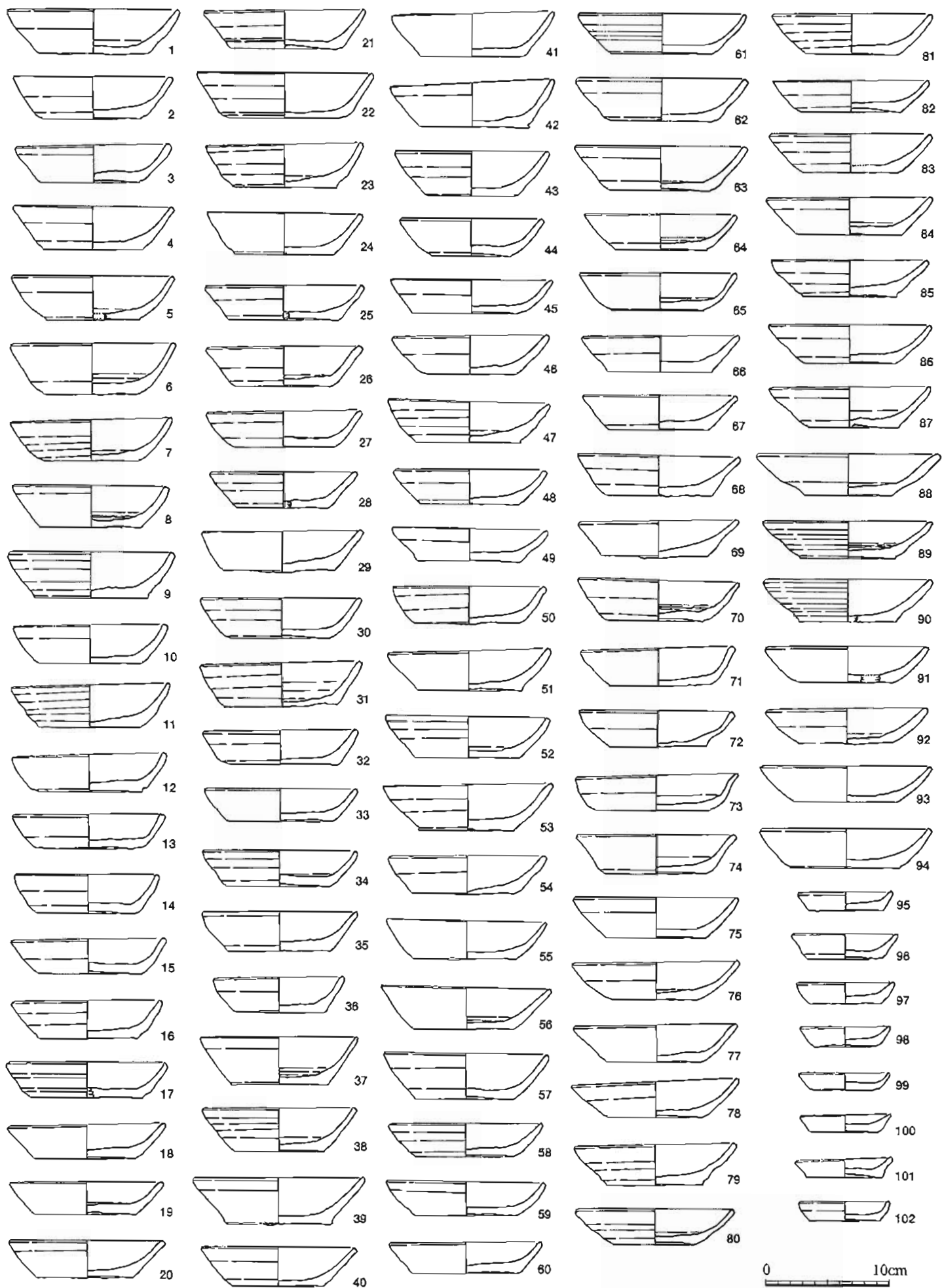
#### 出土遺物（第11、12図）

1～94は土師質土器坏である。器形的な特徴を説明するが、底部はほぼ全て糸切で、内面には渦状ナデが見られるものが多い。1～17は内湾しながら立ち上がり、18～36は直線的に立ち上がる。37～40は長く直線的に外に開く。41～69はやや内湾しながら外に開く。70～74は口縁部が外反して外に開く。75～94は器高が浅く、口縁部が内湾しながら大きく外に開く。95～140は土師質土器小皿である。95～113は口縁部が立ち上がり、114～136は大きく外に開く。137・138は口縁部が立ち上がり、139は直線的に口縁部が開く。140は口縁部が内傾して立ち上がる。141・142は土師質土器の耳皿である。143は青磁碗で外面に鎧蓮弁文が施される。144は青磁碗で、口縁部は外反する。145は青磁碗で見込みに櫛搔文を配し、見込みとの境に沈線文が巡る。146は青磁碗で内面に蓮弁を配し、その上部に雷文を連続配置する。147は白磁碗で見込みに櫛搔文を配する。148は青磁の小壺か。149は瓦質土器の火鉢で突帯下部に縦方向の凹線文、上面に巴文が連続配置される。150は瓦質土器の火鉢で、口縁部下に2条の突帯が巡り、菊花文のスタンプが連続配置される。151は陶

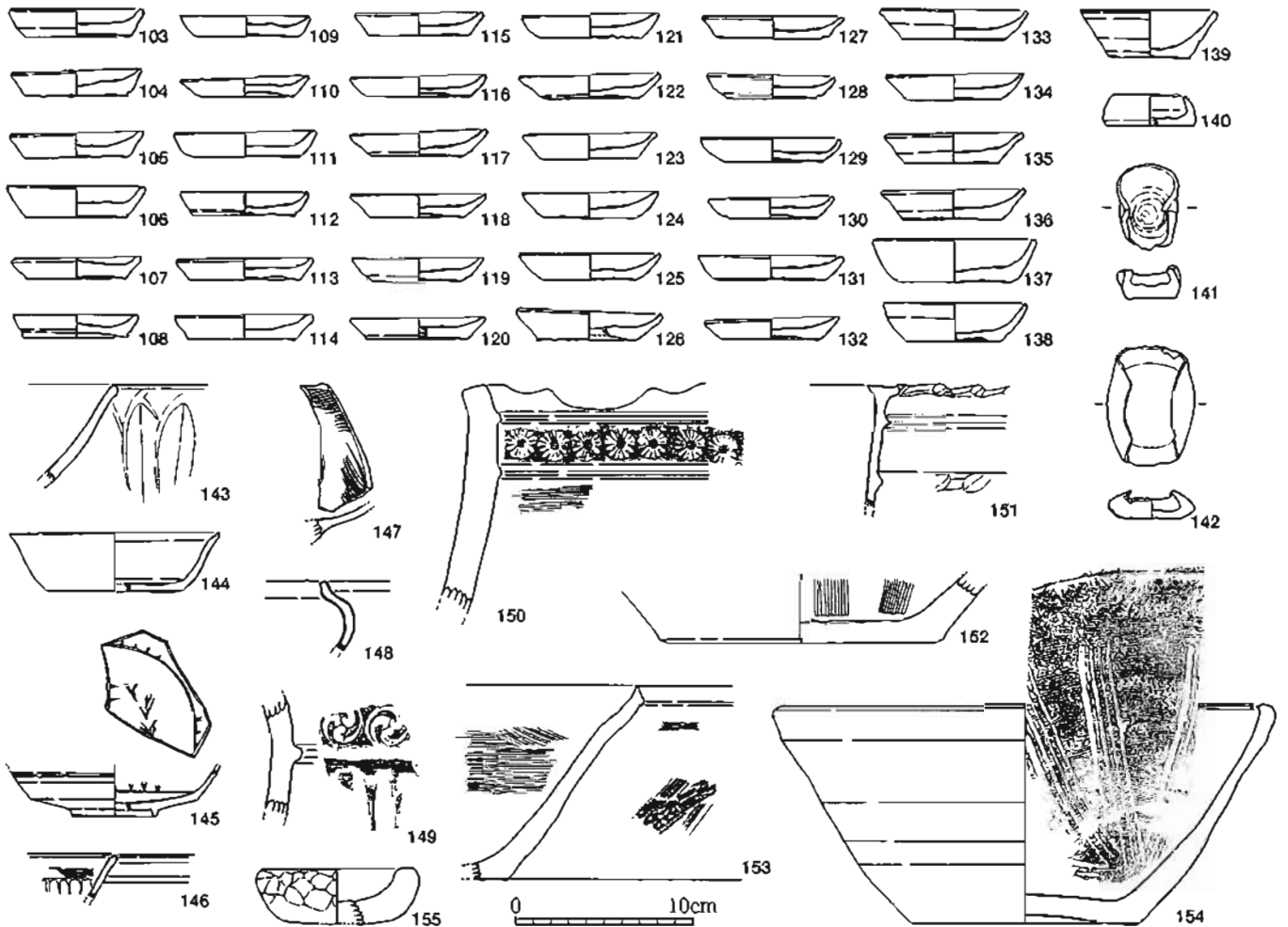


第10図 包含層遺物出土状況実測図 (1/100、1/800)





第11图 包含層出土状況実測図① (1/4)



第12図 包含層出土遺物実測図② (1/4)

器甕で口縁部に刻みが入り、口縁下部の突帯にも刻みが施される。152は陶器甕の底部である。153は瓦質の槽鉢である。154は陶器槽鉢である。口縁部がやや内傾する。155は鑄造関係遺物か。土師質の表面に鉍滓の付着と硬化が見られる。坩堝か。そのほか有機物質遺物も数点出土しているが、整理等が完了しておらず掲載していない。(図版3)

### 7. その他の遺物 (第13・14図)

ここでは土器類以外の遺物を一括して説明する。なお、出土遺構については観察表を参照いただきたい。

瓦 1は軒丸瓦で巴文が施される。2～4は軒丸瓦、5は軒平瓦、6・7は平瓦である。

鉄器 8・9は鎌、10・11は用途不明の製品である。10は方形の棒を螺旋状にねじって作られており、先端には鎖状の輪が繋がる。11は細い棒状である。12～13は小刀か。15は刀子。16～24は釘である。16～18は先端が小さく曲がる。25・26は先端が曲がり、体部が折れ曲がる。鋸か。

木製品 27～30は1号井戸からの一括品である。27・28は毬か。全体に面取り整形される。29は独楽の類か。先端を研ぎだしている。30は桶の底か。出土時に曲げものの破片が見られた。31は漆器である。木質から剥落して出土した。そのほか同様に漆器の漆部分のみが出土している。(写真8) 黒い下地に赤漆で模様が施されている。

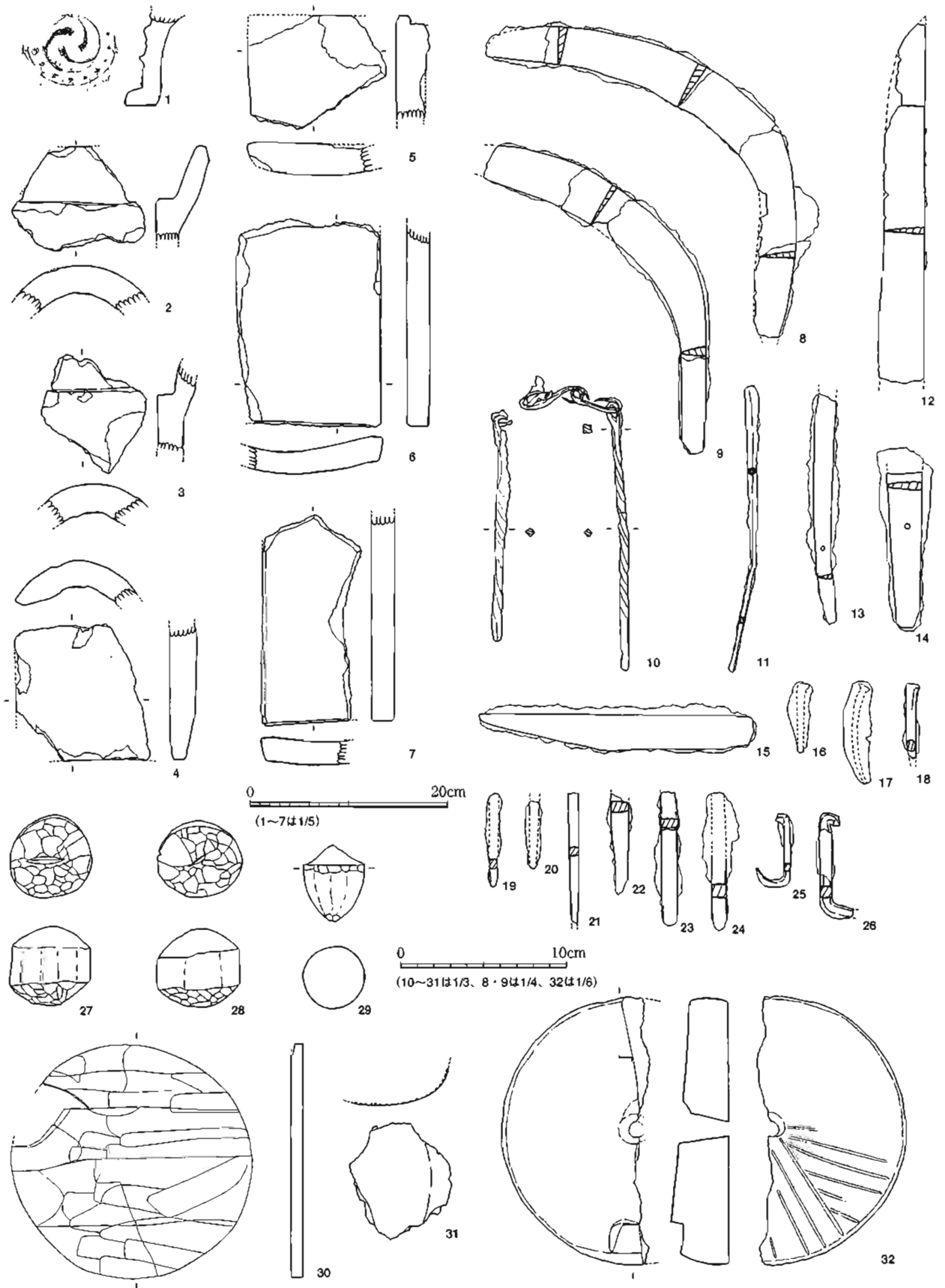
石製品 32は石臼で、半分に割られ、礎石として利用されていた。

輸入銭 全部で15点出土した。全て輸入銭と考えられる。また、図示した以外に詳細不明だが、3枚重ねのもの(写真7)などの2点が出土している。

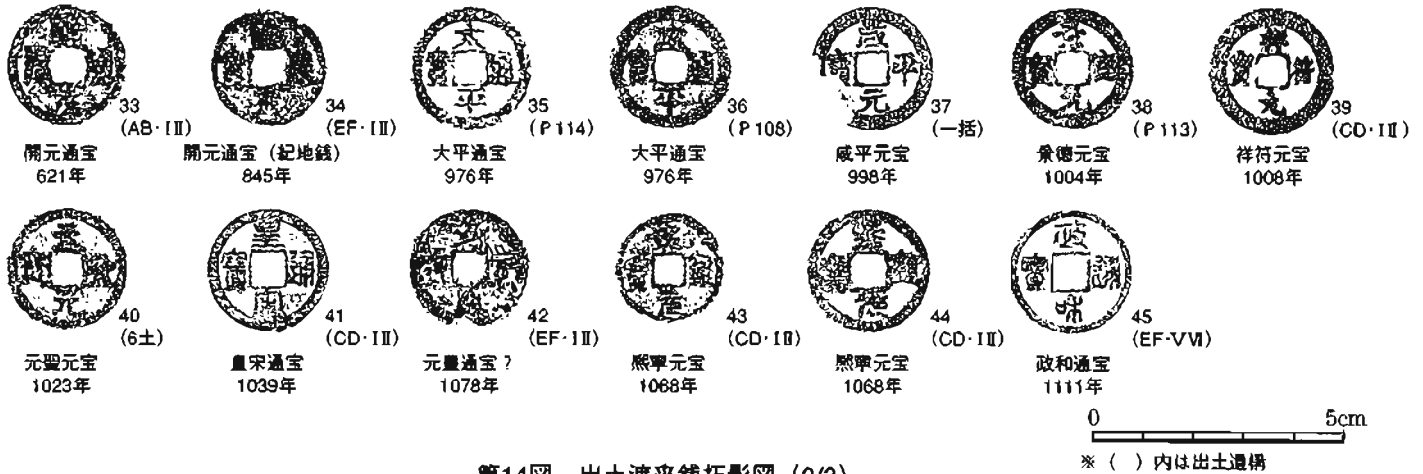


写真7 渡来銭

写真8 漆器



第13図 その他の遺物実測図 (1/3、1/4、1/5)



第14図 出土渡来銭拓影図 (2/3)

#### IV まとめ

前章において解説を加えた遺構の時期を整理し、遺跡の性格について検討を行う。

さて、各遺構及び包含層より出土した遺物の大半は土師質土器にて占められる。さらに土師質土器の大半は坏類で占められ、その特徴は口縁部が内湾しながら立ち上がる、あるいは外に開く特徴を持つものが多い。遺構出土遺物や包含層出土遺物の殆どがこの器形に該当する。同様に小皿も口縁部が立ち上がるか、外に開く特徴を持つものが多く見られる。これらは慈眼山遺跡A区での田中氏、上ノ馬場遺跡での行時氏のA・B類に相当するものと考えられる。これら以外には、口縁部が直線的に外に立ち上がるタイプのもが若干ながら見受けられる。包含層出土遺物のうちの第11図37～40が該当する。これと同じ器形を有する小皿は第12図139である。これは田中氏・行時氏のC類に相当する。以上の土師質土器の特徴や出土する磁器類、中国産染付が出土しない点などから本調査区の遺構の時期は概ね15世紀後半～16世紀前半までの範囲に収まると考えられる。そのなかでも、遺構出土の土師質土器の大半がA・B類に該当することから、田中氏のI期に該当し、この間の早い時期に位置づけられよう。これに対し、包含層出土遺物の中に若干ながらC類が含まれていることから、田中氏のII期に該当し、若干新しい可能性が想定される。つまり、遺構が形成される上限は15世紀後半、その後整地される下限が16世紀前半までと考えられよう。

さて、本調査区の遺構や遺物の特徴は、①整地されたうえに形成されていること②溝や建物がほぼ南北及び東西方向に軸をあわせていること③瓦・渡来銭・漆製品が出土していること④火災を受けた箇所を大量に持ってきて整地しなおしていることの4点があげられる。①②の点はかなり大規模で計画的に区画された屋敷地の形成が想定され、③から身分の高い階層の存在が想定される。④でかなり大規模な造成の可能性と15～16世紀に周辺で火災があった可能性が想定される。しかもこれらは、前述の時期比定から15世紀後半以降に行われ、少なくとも16世紀後半には廃絶されている可能性がある。このことを示すように慈眼山遺跡A区では石組水路やL字型の壕、慈眼山瀬戸口遺跡では石垣状の石組や造成痕跡、上ノ馬場遺跡では南北に巡る溝など、大規模な範囲での集落形成が確認されており、しかもこれらは15世紀後半から16世紀中頃までのほぼ同時期に形成され、出土遺物の特徴も含めて本調査区の状況に符号しているのである。つまり、慈眼山の南側の沖積地一帯にはかなり広い範囲で15世紀後半に高い身分の屋敷地が計画的に形成され、それらは幾度かの造成を伴いながらも16世紀中頃までしか継続しないのである。しかも途中幾度か周辺では火災が発生し、造成が再度行われている。

この15世紀中頃～後半及び16世紀中頃は日田氏の激動の時代である。1444年には家督争いによる永包の死によって大蔵姓日田氏が断絶し、15世紀後半以降大友姓日田氏が日田を治めることになる。そして16世紀中頃には大友氏の家督争いに影響され親将が死亡し、8老による郡老支配へと至ることになる。このような慈眼山を取り巻く情勢が大きく変化する時期と調査結果は符合し、このころの社会情勢を如実に示す貴重な資料を提供している。



おわりに 報告にあたり様々な制約から出土遺物の全てを掲載できていない点を記して謝罪致します。

(参考文献)

- 坂本嘉弘編 「慈眼山瀬戸口遺跡」 国家公務員合同宿舍日田住宅2号棟建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報 大分県教育委員会 1992年  
 田中裕介編 「慈眼山遺跡 (A地区)」 大分県文化財調査報告第85編 大分県教育委員会 1991年  
 行時志郎編 「上ノ馬場遺跡」 日田市埋蔵文化財調査報告第23集 日田市教育委員会 2000年  
 橋本操六 「第0編 古代・中世 第二章中世」 『日田市史』 日田市 1990

表1 出土土器観察表①

図版	番号	遺物名	種類	形状	径 (cm)			高さ			出土	状態	色調		備考
					口徑	底径	底高	口径	内径	底高			外底	内底	
9	1	1号建物P3	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	2	1号建物P1	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	3	2号建物P1	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	4	2号建物P4	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	5	2号建物P1	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	6	3号建物P5	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	7	3号建物P4	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	8	2号井戸	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	9	2号井戸	土師	火鉢							良好	淡黄色	淡黄色		
9	10	2号井戸	土師	火鉢							良好	淡黄色	淡黄色		
9	11	2号土坑	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	12	4号土坑	土師	坪	(13.6)	(8.2)	3.5				良好	淡黄色	淡黄色		
9	13	5号土坑	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	14	2号溝	土師	坪	(12.4)	8.1	2.4				良好	淡黄色	淡黄色		
9	15	2号溝	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	16	2号溝	土師	小皿		5.6					良好	淡黄色	淡黄色		
9	17	2号溝	土師	碗							良好	淡黄色	淡黄色		
9	18	2号溝	土師	碗							良好	淡黄色	淡黄色		
9	19	2号溝	土師	火鉢							良好	淡黄色	淡黄色		
9	20	4号溝	土師	火鉢							良好	淡黄色	淡黄色		
9	21	5号溝	土師	坪	(2.0)	7.6	3.9				良好	淡黄色	淡黄色		
9	22	5号溝	土師	小皿	7.2	5.3	1.7				良好	淡黄色	淡黄色		
9	23	5号溝	土師	小皿	7.1	4.5	1.6				良好	淡黄色	淡黄色		
9	24	6号溝	土師	坪	(4.3)	(10.3)	3.4				良好	淡黄色	淡黄色		
9	25	6号溝	土師	坪	12.2	8.6	3.9				良好	淡黄色	淡黄色		
9	26	6号溝	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	27	6号溝	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	28	6号溝	土師	小皿	(8.4)	(6.6)	1.6				良好	淡黄色	淡黄色		
9	29	6号溝	土師	小皿							良好	淡黄色	淡黄色		
9	30	7号溝	土師	坪	18.1	10.5	3.8				良好	淡黄色	淡黄色		
9	31	7号溝	土師	坪	13.9	9.1	3.1				良好	淡黄色	淡黄色		
9	32	7号溝	土師	坪	(14.8)	(10.2)	3.7				良好	淡黄色	淡黄色		
9	33	8号溝	土師	坪	(13.7)	(9.9)	3.8				良好	淡黄色	淡黄色		
9	34	7号溝	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	35	7号溝	土師	坪	13.8	6.9	2.8				良好	淡黄色	淡黄色		
9	36	7号溝	土師	坪	9.2	6.2	2.2				良好	淡黄色	淡黄色		
9	37	7号溝	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	38	7号溝	土師	火鉢							良好	淡黄色	淡黄色		
9	39	7号溝	土師	火鉢							良好	淡黄色	淡黄色		
9	40	7号溝	土師	火鉢							良好	淡黄色	淡黄色		
9	41	7号溝	土師	火鉢							良好	淡黄色	淡黄色		
9	42	8号溝	土師	坪	(13.8)	9.4	3.1				良好	淡黄色	淡黄色		
9	43	P174	土師	坪	(10.5)	(9.9)	3.3				良好	淡黄色	淡黄色		
9	44	P221	土師	坪	(12.4)	(8.4)	3.1				良好	淡黄色	淡黄色		
9	45	P182	土師	坪	(13.2)	(8.1)	3.9				良好	淡黄色	淡黄色		
9	46	P187	土師	坪	(13.0)	(7.3)	4.3				良好	淡黄色	淡黄色		
9	47	P117	土師	坪	(13.6)	(8.9)	4.1				良好	淡黄色	淡黄色		
9	48	P149	土師	坪	15.9	9.4	4.5				良好	淡黄色	淡黄色		
9	49	P129	土師	坪	12.3	7.4	3.2				良好	淡黄色	淡黄色		
9	50	P126	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	51	P227	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	52	P166	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	53	P139	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	54	P138	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	55	P111	土師	坪	(11.1)	(9.2)	3.9				良好	淡黄色	淡黄色		
9	56	P97	土師	坪	12.4	9.2	3.2				良好	淡黄色	淡黄色		
9	57	P145	土師	坪	13.8	8.1	3.6				良好	淡黄色	淡黄色		
9	58	P221	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	59	P125	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	60	P221	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	61	P169	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	62	P224	土師	坪	(11.1)	(8.4)	3.1				良好	淡黄色	淡黄色		
9	63	P168	土師	坪	(13.3)	(8.0)	3.4				良好	淡黄色	淡黄色		
9	64	P130	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	65	P221	土師	坪	(12.9)	(7.4)	3.2				良好	淡黄色	淡黄色		
9	66	P97	土師	坪	12.3	8.9	2.9				良好	淡黄色	淡黄色		
9	67	P104	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	68	P224	土師	坪	12.3	8.0	3.2				良好	淡黄色	淡黄色		
9	69	P97	土師	坪	12.4	8.7	2.9				良好	淡黄色	淡黄色		
9	70	P190	土師	坪	11.0	7.1	2.8				良好	淡黄色	淡黄色		
9	71	P222	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	72	P178	土師	坪	(12.9)	(8.0)	3.0				良好	淡黄色	淡黄色		
9	73	P107, 104	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	74	P81	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	75	P87	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	76	P87	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	77	P104	土師	坪							良好	淡黄色	淡黄色		
9	78	P165	土師	小皿	(8.0)	6.3	2.0				良好	淡黄色	淡黄色		
9	79	P217	土師	小皿	(8.4)	(6.5)	2.3				良好	淡黄色	淡黄色		
9	80	P219	土師	小皿	(8.0)	6.8	2.1				良好	淡黄色	淡黄色		
9	81	P151	土師	小皿	7.5	6.6	1.6				良好	淡黄色	淡黄色		
9	82	P111	土師	小皿	8.2	6.2	1.8				良好	淡黄色	淡黄色		
9	83	P153	土師	小皿							良好	淡黄色	淡黄色		
9	84	P210	土師	小皿	7.2	5.9	1.6				良好	淡黄色	淡黄色		
9	85	P111	土師	小皿	7.8	6.2	1.7				良好	淡黄色	淡黄色		
9	86	P213	土師	小皿	(7.5)	(6.0)	1.1				良好	淡黄色	淡黄色		

1 | 調査員、撮影者、土師、内径、底径、口径、高さ、色調、状態、備考

表2 出土土器観察表②

試料	番号	遺物名	場所	器種	法 量 (cm)			測 量			出土	焼成	色 調		備 考	
					口径	底径	高さ	外径	内径	器厚			外面	内面		断面
9	87	P225	北畑	小皿				同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
9	88	P146	北畑	小皿				同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	黄褐色	黄褐色		
9	89	P141	北畑	小皿	6.2	5.5	1.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切りのち+切り	B,C	良好	黄褐色	黄褐色		
9	90	P11	北畑	小皿	5.3	6.1	1.5	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	黄褐色	黄褐色		
9	91	P222	北畑	小皿	7.9	5.0	1.3	同径ナテ	同径ナテ	赤切りのち+切り	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	双料着	
9	92	P136	北畑	小皿	8.1	5.9	1.5	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	B,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
9	93	P144	北畑	小皿	(8.9)	6.0	1.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
9	94	P157	青砥	碗				同径ナテ、緑釉	同径ナテ、緑釉			精査	良好	緑褐色	緑褐色	
9	95	P199	青砥	碗				同径ナテ	同径ナテ			精査	良好	緑褐色	緑褐色	
9	96	P182	青砥	杯				同径ナテ	同径ナテ			精査	良好	白褐色	白褐色	
11	1	CD・I	北畑	杯	(11.0)	(9.0)	3.7	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	A,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	2	CD・I	北畑	杯	12.9	7.9	3.5	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	A,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	3	CD・I	北畑	杯	12.7	8.1	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	4	CD・I	北畑	杯	13.0	8.6	3.5	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	5	CD・I	北畑	杯	(13.2)	7.6	3.6	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	6	CD・I	北畑	杯	(13.3)	(7.1)	4.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	7	一底	北畑	杯	13.2	7.2	3.5	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	8	CD・I	北畑	杯	12.7	8.2	3.3	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	9	上層No.5	北畑	杯	(13.5)	(8.2)	3.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	10	CD・I	北畑	杯	12.4	8.6	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	A,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	11	CD・I	北畑	杯	12.5	8.1	3.6	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	褐色	褐色		
11	12	CD・I	北畑	杯	12.6	8.5	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	13	CD・I	北畑	杯	(12.3)	(7.8)	2.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	14	CD・I	北畑	杯	(11.8)	8.0	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	15	AB・I	北畑	杯	12.6	7.2	2.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	B,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	16	CD・I	北畑	杯	12.2	8.2	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	17	AB・I	北畑	杯	(13.0)	(8.5)	2.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	G,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	18	A・I	北畑	杯	12.8	8.0	2.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	B,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	19	CD・I	北畑	杯	12.4	8.4	2.7	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	20	CD・I	北畑	杯	12.6	7.9	3.0	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	21	CD・I	北畑	杯	13.2	8.5	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	22	AB・I	北畑	杯	(14.2)	(8.5)	3.7	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	23	CD・I	北畑	杯	12.7	8.2	3.7	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	A,G,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	24	AB・I	北畑	杯	12.9	7.9	3.6	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	25	AB・I	北畑	杯	(12.8)	(8.8)	2.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	26	AB・I	北畑	杯	12.6	7.8	3.3	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	27	CD・I	北畑	杯	12.5	7.9	2.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,B,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	28	C・D	北畑	杯	(12.0)	(7.3)	2.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	29	CD・I	北畑	杯	13.0	8.0	3.5	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	30	A・I	北畑	杯	13.0	8.0	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	31	CD・I	北畑	杯	13.1	8.2	3.7	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	32	CD・I	北畑	杯	12.6	8.6	2.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	A,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	33	CD・I	北畑	杯	(12.2)	(8.4)	2.6	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	34	B・I	北畑	杯	(12.5)	8.1	2.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	35	AB・I	北畑	杯	12.6	4.1	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	36	上層No.3	北畑	杯	10.8	7.5	3.6	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	37	上層No.2	北畑	杯	(12.8)	7.9	3.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	38	CD・I	北畑	杯	12.5	7.1	3.6	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	39	AB・I	北畑	杯	14.0	8.6	3.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	40	CD・I	北畑	杯	12.6	7.3	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	41	BP・III	北畑	杯	13.1	8.1	3.7	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	褐色	褐色		
11	42	AB・I	北畑	杯	13.2	8.9	3.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	褐色	褐色		
11	43	BP・III	北畑	杯	(12.6)	(7.6)	(6.6)	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	44	AB・I	北畑	杯	(11.8)	(6.4)	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	A,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	45	AB・I	北畑	杯	13.0	8.2	2.7	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	46	CD・I	北畑	杯	12.8	7.0	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	47	CD・I	北畑	杯	13.2	8.1	3.5	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	A,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	48	CD・I	北畑	小皿	(12.4)	(7.8)	2.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	A,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	49	AB・I	北畑	杯	12.6	8.3	2.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	50	CD・I	北畑	杯	12.4	8.3	3.0	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	51	CD・I	北畑	杯	13.2	8.5	3.4	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	52	BP・VII	北畑	杯	13.3	8.8	3.4	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	53	BP・IX	北畑	杯	13.8	7.6	3.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	54	CD・I	北畑	杯	12.8	7.7	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	55	AB・I	北畑	杯	12.9	8.2	3.3	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	56	CD・I	北畑	杯	13.8	8.0	3.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	57	BP・IX	北畑	杯	13.3	8.0	3.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	褐色	褐色		
11	58	CD・I	北畑	杯	(12.5)	(7.8)	2.7	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	59	AB・I	北畑	杯	12.9	8.1	2.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	60	AB・I	北畑	杯	12.3	8.6	2.6	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	61	BP・IX	北畑	杯	(13.6)	(8.1)	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	62	CD・I	北畑	杯	(14.0)	(8.8)	3.4	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	63	CD・I	北畑	杯	(14.0)	(7.9)	3.6	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	64	A・I	北畑	杯	12.4	7.4	2.9	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	65	碗	北畑	杯	12.6	7.4	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	B,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	66	BP・IX	北畑	杯	12.8	8.3	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	67	BP・IX	北畑	杯	12.5	8.9	2.8	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	68	CD・I	北畑	杯	13.2	8.6	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	69	A・I	北畑	杯	13.0	8.5	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	B,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色		
11	70	CD・I	北畑	杯	13.1	7.8	3.5	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	71	A・I	北畑	杯	12.6	8.2	3.2	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	72	CD・I	北畑	杯	12.7	8.6	3.6	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	73	A・I	北畑	杯	13.2	8.3	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	B,C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	74	BP・IX	北畑	杯	(13.0)	8.1	3.1	同径ナテ	同径ナテ	赤切り	A,B,C	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	75	BP・III	北畑	杯	(13.4)	(8.0)	3.3	同径ナテ	同径ナテ	赤切り、灰状圧痕	C,D	良好	淡黄褐色	淡黄褐色		
11	76	CD・I														

表3 出土土器観察表③

図録	番号	遺物名	材質	形状	法 量 (cm)			調 整			取 上	焼 成	色 調		備 考
					口径	底径	高さ	外面	内面	底面			外側	内側	
11	96	AB・I-II	土師	小皿	(8.6)	(6.1)	2.0	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C	良好	緑赤褐色	緑赤褐色	
11	97	CD・I-II	土師	小皿	5.6	5.6	1.8	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	C,D	良好	黄褐色	黄褐色	
11	98	CD・I-II	土師	小皿	7.3	5.1	1.7	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	A,B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
11	99	AB・I-II	土師	小皿	(7.5)	(7.7)	1.4	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
11	100	CD・I-II	土師	小皿	7.2	5.3	1.8	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
11	101	CD・I-II	土師	小皿	7.9	6.1	1.6	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	B,C	良好	淡褐色	淡褐色	
11	102	E-II	土師	小皿	7.4	6.8	1.6	回転ナデ	ナデ	糸切り、板状圧痕	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	103	C-I	土師	小皿	7.6	6.0	1.6	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	104	CD・I-II	土師	小皿	7.2	5.7	1.5	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	105	CD・I-II	土師	小皿	7.6	5.8	1.5	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	B,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	106	CD・I-II	土師	小皿	(7.8)	(6.6)	1.8	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	107	CD・I-II	土師	小皿	7.3	5.6	1.3	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	108	CD・I-II	土師	小皿	7.1	6.0	1.4	回転ナデ	高状ナデ	糸切り	B,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	109	CD・I-II	土師	杯	7.3	5.6	1.3	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	110	A-II	土師	小皿	7.2	5.1	1.2	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	111	EP・I-II	土師	杯	8.0	6.2	1.5	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	B,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	112	一括	土師	小皿	7.2	5.6	1.4	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C	良好	黄褐色	黄褐色	
12	113	AB・I-II	土師	小皿	7.8	6.2	1.3	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	114	AB・I-II	土師	小皿	7.8	6.2	1.4	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C,D	良好	黄褐色	黄褐色	
12	115	CD・I-II	土師	杯	7.3	5.6	1.4	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	C,D	良好	黄褐色	黄褐色	
12	116	CD・I-II	土師	小皿	7.6	5.9	1.2	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	117	CD・I-II	土師	小皿	7.8	5.8	1.5	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	B,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	118	CD・I-II	土師	小皿	7.7	5.3	1.3	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	119	CD・I-II	土師	小皿	7.3	5.6	1.3	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,B,C	良好	赤褐色	赤褐色	
12	120	CD・I-II	土師	小皿	7.6	5.6	1.3	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	C	良好	赤褐色	赤褐色	
12	121	CD・I-II	土師	小皿	7.7	5.8	1.4	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	A,B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	122	CD・I-II	土師	小皿	8.0	5.9	1.4	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C	良好	褐色	褐色	
12	123	A-II	土師	小皿	7.2	5.3	1.6	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	124	A-II	土師	小皿	7.7	5.1	1.8	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	125	一括	土師	小皿	(7.9)	(5.3)	1.5	回転ナデ	ナデ	糸切り	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	126	一括	土師	小皿	8.2	5.8	1.8	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	127	CD・I-II	土師	小皿	(7.9)	6.1	1.2	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	128	CD・I-II	土師	小皿	7.3	5.0	1.4	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	129	CD・I-II	土師	小皿	7.9	5.5	1.3	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	C,D	良好	淡褐色	淡褐色	
12	130	A-II	土師	小皿	7.1	4.9	1.2	回転ナデ	高状ナデ	糸切り	A,B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	131	AB・I-II	土師	小皿	8.2	6.3	1.3	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	A,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	132	CD・I-II	土師	小皿	7.6	5.4	1.4	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	B,C	良好	赤褐色	赤褐色	
12	133	AB・I-II	土師	小皿	8.2	5.8	1.7	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	134	CD・I-II	土師	小皿	7.8	6.2	1.5	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	B,C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	135	AB・I-II	土師	小皿	7.6	5.2	1.8	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	136	一括	土師	杯	8.2	5.6	1.8	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	B,C	良好	明褐色	明褐色	
12	137	CD・I-II	土師	小皿	(9.2)	(6.1)	2.4	回転ナデ	不定ナデ	糸切り、板状圧痕	A,C,D	良好	黄褐色	黄褐色	
12	138	CD・I-II	土師	小皿	8.4	5.1	2.2	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	A,C	良好	黄褐色	黄褐色	
12	139	CD・I-II	土師	小皿	7.7	4.6	2.7	回転ナデ	回転ナデ	糸切り、板状圧痕	C,D	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	140	B-II	土師	小皿	(4.6)	(4.8)	1.6	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	A,B,C	良好	褐色	褐色	
12	143	B-II	土師	杯				回転ナデ	回転ナデ			良好	白灰色	白灰色	
12	144	CD・I-II	土師	杯	(11.6)	(7.6)	3.2	回転ナデ・楕	回転ナデ・楕	ヘラ切り	緑黄	良好	灰白色	灰白色	
12	145	CD・I-II	土師	杯		(4.8)		回転ナデ・楕	回転ナデ・楕	ヘラ切り	緑黄	良好	灰白色	灰白色	
12	146	E-V	土師	杯				回転ナデ	回転ナデ		緑黄	良好	淡緑色	淡緑色	
12	147	CD・I-II	土師	杯				楕	楕		緑黄	良好	白灰色	白灰色	
12	148	E-V	土師	杯				回転ナデ・楕	回転ナデ・楕		緑黄	良好	淡緑色	淡緑色	
12	149	一括	土師	火鉢				ナデ	ナデ		C	良好	赤褐色	赤褐色	
12	150	CD・I-II	土師	火鉢				ナデ	ナデ		A,C,D	良好	赤褐色	赤褐色	
12	151	F-3	陶器	蓋				ナデ・自然釉	ナデ・自然釉		緑黄	良好	緑褐色	緑褐色	緑褐色ナデ
12	152	AB・I-II	土師	蓋		(16.0)		ナデ	回転ナデ・ヘラ	ナデ	C	良好	黄褐色	黄褐色	
12	153	D-II	土師	蓋				ハタのちナデ	ナデ・ヘラ	ナデ	B,C	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
12	154	B-I	陶器	鉢	(28.2)	(12.6)	12.1	ナデ	洗刷文、ハナ	ナデ	B,C	良好	黄褐色	黄褐色	
12	155	B-II・I-II	土師	埋蓋	(9.7)		3.1	板状圧痕	赤色面有	板状圧痕	C	良好	灰褐色	灰褐色	

( ) 括弧内、測定公差。取上：A内筒 B石灰 C長尺 D赤褐色 E白灰色 F淡黄色 G黄褐色

表4 出土瓦・鉄器・木器類観察表

図録	番号	遺物名	種類	形状	法 量 (cm)			取上	調 整			取 上	焼 成	色 調	備 考
					口径	底径	高さ		外面	内面	底面				
12	141	EP・I-II	土師	瓦	1.8	3.5	1.9	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	C,D	良好	赤褐色		
12	142	B-II	土師	瓦	6.7	4.8	1.6	ナデ	ナデ	糸切り	A,B,C	良好	黄褐色		
13	1	1号瓦	瓦	丸瓦				ナデ	ナデ		A,C	良好	黄褐色		
13	2	1号瓦	瓦	丸瓦	10.4	13.4	2.8	ナデ	有蓋		A,B,C	良好	黄褐色		
13	3	2号瓦	瓦	丸瓦	11.5	10.5	2.8	ナデ	有蓋		B,C,D	良好	白灰色		
13	4	一括	瓦	丸瓦	13.7	13.5	2.9	ナデ	有蓋						
13	5	1号瓦	瓦	半瓦	11	14	2.4	ナデ	ナデ		A,B	良好	黄褐色		
13	6	一括	瓦	半瓦	20.9	14.7	2.4	ナデ	ナデ		A,C	良好	黄褐色		
13	7	1号瓦	瓦	半瓦	21	10.2	2.4	ナデ	ナデ		A,C	良好	黄褐色		
13	8	EP・III	土師	瓦	24.8	3.8	0.7								
13	9	一括	土師	瓦	24.7	3.6	0.7								
13	10	P120	土師	瓦	16	0.5	0.5								
13	11	EP・III	土師	瓦	17.2	0.9	0.9								
13	12	CD・I-II	土師	瓦	21.6	2.8	0.4								
13	13	EP・III	土師	瓦	13.8	1.3	0.3								
13	14	D-I	土師	瓦	19.2	2.2	0.5								
13	15	EP・III	土師	瓦	16.7	3									
13	16	EP・III	土師	瓦	4.2										
13	17	一括	土師	瓦	6.1										
13	18	CD・I-II	土師	瓦	4.6	0.6									
13	19	S18	土師	瓦	5.6	0.5									
13	20	一括	土師	瓦	4	1									
13	21	P159	土師	瓦	7.8	0.6									
13	22	E-II	土師	瓦	6	1									
13	23	CD・I-II	土師	瓦	8.1	1.4	0.5								
13	24	P135	土師	瓦	8.2	0.9									
13	25	D-II	土師	瓦	4.3	2.1	0.5								
13	26	A-II	土師	瓦	6.4	2.1	0.7								
13	27	1号瓦	瓦	蓋	4.9	4.7									
13	28	1号瓦	瓦	蓋	5.1	4.7									
13	29	1号瓦	瓦	蓋	3.8	4.5									
13	30	1号瓦	瓦	蓋	14.2		0.8								
13	31	7号溝	土師	瓦											





調査区遠景（慈眼山を望む）



調査区全景（真上から）



写真図版 2



①第1面4、5号溝(東から)



②第1面3号溝(北から)



③整地層Aグリット



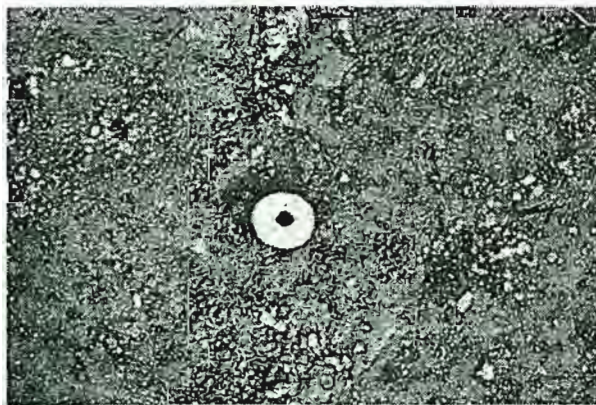
④Aグリット漆出土状況



⑤整地層Bグリット



⑥Bグリット遺物出土状況



⑦Bグリット銭出土状況



⑧整地層Cグリット



⑨整地層Dグリット

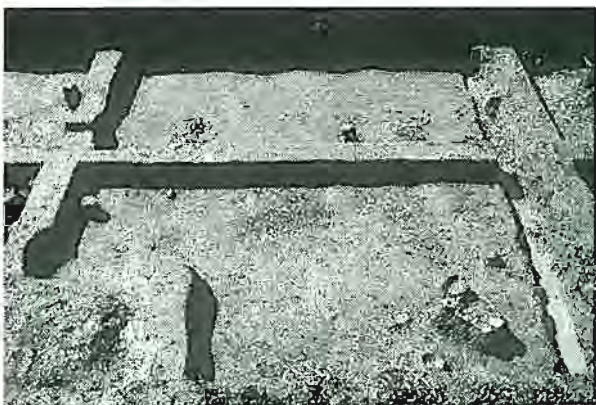




①整地層Eグリット



②Eグリット銭出土状況



③整地層F・Gグリット



④Fグリット土器出土状況



⑤Fグリット有機物出土状況



⑥2号溝 (西から)



⑦6号溝 (北から)



⑧7号溝 (北から)



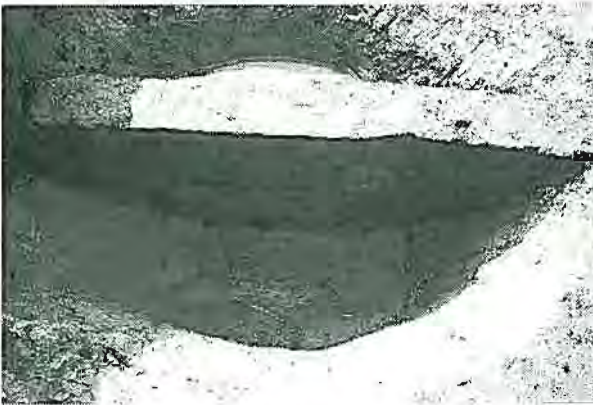
写真図版 4



① 1号井戸完掘 (東から)



② 2号井戸完掘 (西から)



③ 2号土坑 (東から)



④ 3号土坑 (北から)



⑤ 4号土坑出土状況 (西から)



⑥ 11号柱穴 (西から)



⑦ 97号柱穴木製品出土状況 (西から)



⑧ 108号柱穴木製品出土状況





①柱木出土状況



②礎石出土状況



番号はすべて挿図番号に対応する。

写真図版 6



11-68



11-76



11-101



11-102



11-103



12-107



12-121



12-125



12-131



12-133



12-135



12-139



12-140



12-144



12-145



12-143



12-146



12-149



12-150



12-151



12-153



12-154



12-141



13-1



13-2



13-4



13-6



13-7



13-27



13-28



13-32



13-29



13-30



13-31



14-33



14-34



14-35



14-36



14-37



14-38



14-42



14-44



14-45



14-39



14-40



14-41

番号はすべて挿図番号に対応する。



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	じげんざんいせき
書名	慈眼山遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第75集
編著者名	渡邊隆行
編集機関	日田市教育委員会文化財保護課
所在地	〒877-0077 日田市南友田516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島2-6-1
発行年月日	2007年3月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
慈眼山遺跡	日田市上城内町 435-1ほか	44204-6	651136	33°	130°	20050217	400m <sup>2</sup>	宅地 造成
				19′ 43″	56′ 35″	20050331		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
慈眼山遺跡	集落	中世	溝	8条	土師器、陶磁器、 瓦	
			土坑	16基		
			掘立柱建物	2棟		
			整地層			

## 慈眼山遺跡

2007年3月30日

編 集 〒877-0077 大分県日田市南友田町516-1  
日田市教育委員会文化財保護課

発 行 〒877-8601 大分県日田市田島2-6-1  
日田市教育委員会

印 刷 〒877-0076 大分県日田市亀川町848-1  
(有) インデバイス